

2023 年度事業報告書

2023 年は新型コロナウイルス感染症も一定の落ち着きを見せ、数年ぶりに平常が見えてきた1年であった。その中で職員の確保に苦慮しながら事業所内の人員配置の見直しなどをし、地域のニーズに最大限応えるため活動を続けている。前年に引き続き物価が高止まりしている事に悩まされたが、光熱費や燃料費に対する京都府や京丹波町の支援金を受けることが出来た。また、日本財団から送迎車の助成を受けることが出来たが、自動車メーカーの都合により年度を越えての納車となった。

2023 年度事業計画に掲げた事項についてはおおむね次の通りであった

1. 感染症対策の徹底、「業務継続計画」の策定。

新型コロナウイルスは第 5 類感染症になり世間のコロナに対する意識は薄れてきたが、介護現場では依然と同じ対応を余儀なくされ、精神的な負担は軽減されることは無かったが、従前として同じ感染対策、簡易検査キットの活用、感染症委員会の開催、感染症に関する研修への参加、内部研修の開催等での確かな判断、対処法が身につき大きな感染拡大には至らなかった。国と京丹波町より手袋・マスク・フェイスシールド等の感染対策資材の配布を受け活用した。感染症・非常災害発生時の行動指針となる「業務継続計画（BCP）」については年度内に策定を完了することができた。

2. 職員確保・適切な人員配置・役員体制

4 月 1 日付で常勤職員 1 名を採用したが試用期間満了で退職、8 月にデイサービス非常勤看護師 1 名を採用した。9 月には団体発足当時より法人の中心に立ち、支えていた職員兼理事が急逝し脱退することとなったが、職員及び役員がその遺志を受け継ぎ団結し、活動にあたっている。職員確保に向けては、京丹波町役場で開催された「介護入門的研修」で事業所の紹介を行い、ハローワークへの求人登録も行ったが成果は出なかった。人員配置については 4 月よりケアマネジャーの管理者が交代となり、24 年度より訪問介護管理者の交代が決定した。3 月には職員 1 名が介護福祉士を取得した。

3. 役員体制の強化

新年度に新理事候補 3 名を加え、監事を 2 名体制とする役員人事を通常総会に提案することを決定した。

4. 新規事業開拓の調査・研究

前年度より調査・研究を行っている障害福祉関連事業について、行政、関連団体と協議を重ね、南丹市の障害者グループホームあしたーる風和里への施設の見学や障害者に関する交流会にも参加し知見を深めたが、結論を出すまでには至らず引き続き調査・研究を行うこととなった。

職員1名が京丹波町主催の「京丹波町福祉懇談会（仮称）」開催に向けた会議に出席し、地域課題の解決に向けた会議の在り方について議論、検討を行った。

職員1名が障害分野の相談支援従事者の資格更新とサービス管理責任者を取得した。

以下、項目別に報告する。

◆会員

年度末時点の会員数は次表のとおりである。正会員60人のうち37人が役員及び職員で、それ以外が25人となっている

	本年度末	前年度末
正会員	60人	63人
協力会員	12人	16人
賛助会員	13社	13社

◆機関会議

①通常総会

日時：2023年5月27日(土)10時00分～11時45分

場所：京丹波町商工会瑞穂支所

出席：正会員65人中53人出席(本人出席27人、委任状・書面表決26人)

議題 第1号議案 2022年度事業報告承認の件

第2号議案 2022年度活動決算承認の件

第3号議案 2023年度事業計画承認の件

第4号議案 2023年度活動予算承認の件

来賓に畠中源一京丹波町長を迎えて開催し、全議案とも原案通り可決承認を得た。

②理事会

年間3回開催し、それぞれの時点での活動状況や課題を協議した。

第1回 2023年5月13日(土) 通常総会提出議案について

第2回 2023年10月18日(水) 上半期の活動状況と下半期の活動について

第3回 2024年3月21日(木) 決算見込と来期の活動方針について

◆職員

①常勤職員

4月常勤職員1名を採用したが試用期間満了で退職となり増減は無し。年度末時点で事務局長1人、ヘルパー部門4人、ケアマネジャー3人、デイサービス3人の11人である。

②非常勤職員

デイサービス担当看護師1名を採用したが、死亡による退職が1人あり、年度末現で24人である。

◆研修

①内部研修

職員による研修委員会を組織し、職員自身の企画・運営によりヘルパー会議において次表の研修を実施した。

虐待防止・身体拘束排除及び感染症については委員会を開催し、研修を実施した。

時期	テーマ
6月	感染症（委員会）
7月	虐待防止・身体拘束排除（委員会）
8月	交通安全
9月	認知症
10月	非常時緊急時の対応
11月	法令遵守・プライバシー保護
1月	介護技術・接遇

②外部研修・会議出席等

対面・オンラインともに以下の会議・研修に参加した。

時期	テーマ	主催
4月	エアロゾル感染対策ガイドブック説明会	京都府
5月	新型コロナ5類移行に向けた説明会	京都府
	障害者に関する交流会	NPO 法人スマイル
6月	第4期京丹波町障害者基本計画及び第7期京丹波町障害者福祉計画・第3期京丹波町障害児福祉計画策定に向けた事業所ヒアリング	京丹波町
	成年後見制度研修会	京丹波町
7月	サービス管理責任者基礎研修	京都府
	京丹波町地域包括ケア推進委員会及び京	京丹波町

	丹波町地域包括支援センター運営協議会 並びに京丹波町地域密着型サービス運営 委員会	
	京丹波町地域 SDG s 活動推進協議会	京丹波町
	メンタルヘルス&アンガーマネジメント研修	京都府社会福祉協議会
	京都府認知症実践者研修	京都府
8月	京都府相談支援従事者現任研修	京都府
9月	介護保険事業計画策定に向けた事業所ヒア リング	京丹波町
	安全運転管理者講習	京都府警
	京丹波町地域 SDG s 活動推進協議会	京丹波町
	障害者に関する交流会	NPO 法人スマイル
	リハビリテーションステップアップ研修 ～知っておきたい栄養のこと～	南丹圏域地域リハビリテーシ ョンセンター
10月	現場で活かせる技術セミナー～レクリエ ーションの目的を学ぶ～	京都府社会福祉協議会
	リハビリテーションステップアップ研修 ～知っておきたい摂食嚥下のこと～	南丹圏域地域リハビリテーシ ョンセンター
	ケアマネジャー等との懇談会	京丹波町民生児童委員協議会
	「京丹波町福祉懇談会(仮称)」開催に向 けた会議	京丹波町
	京丹波町地域包括ケア推進委員会及び京 丹波町地域包括支援センター運営協議会 並びに京丹波町地域密着型サービス運営 委員会	京丹波町
11月	孤独・独立対策官民連携プラットフォーム シンポジウム	内閣府
	デイサービスほほえみ運営推進会議	京丹波町社会福祉協議会
	リハビリテーションステップアップ研修 ～知っておきたい転倒予防のコツ～	南丹圏域地域リハビリテーシ ョンセンター
	京丹波町地域 SDG s 活動推進協議会	京丹波町
12月	京丹波町地域包括ケア推進委員会及び京 丹波町地域包括支援センター運営協議会 並びに京丹波町地域密着型サービス運営 委員会	京丹波町
1月	ケアマネジャー等との懇談会	京丹波町民生児童委員協議会
	家族で考える終活セミナー	京丹波町
2月	高齢者に対する運動の必要性と方法	南丹圏域地域リハビリテーシ

		ョンセンター
	介護現場における生産性向上フォーラム	厚生労働省
	事業者における合理的配慮の提供に係る説明会	京都府
	「京丹波町福祉懇談会（仮称）」開催に向けた会議	京丹波町
3月	京丹波町地域包括ケア推進委員会及び京丹波町地域包括支援センター運営協議会並びに京丹波町地域密着型サービス運営委員会	京丹波町
	デイサービスほほえみ運営推進会議	京丹波町社会福祉協議会
	京都府機能訓練指導員研修～認知症の方への食支援～	京都府
	福祉避難所サポートリーダー養成研修	京都府南丹保健所
	栄養管理連携推進研修	京都府南丹保健所
	感染対策きほんのき	京都中部総合医療センター
随時	地域ケア会議	京丹波町
	京都丹波オレンジロードつなげ隊企画会議	京都府南丹保健所

◆広報活動・その他

①情報発信

広報誌『クローバーだより』を毎月約400部発行し、会員、利用者、関係機関等に配布しホームページにも掲載した。フェイスブックによる発信も随時行った。

②その他

1月に発災した能登半島地震に日本財団の被災地基金を通じて30万円の寄付を行い、3月には職員2名を石川県七尾市へボランティア活動に派遣した。

京都丹波オレンジロードつなげ隊の活動に職員1名が参加し、世界アルツハイマーデーに合わせて丹波マーケスで行われた認知症の啓発イベントや京丹波町社会福祉協議会主催の福祉祭りに参加し認知症の啓発に努めた。

京丹波町主催の京丹波町地域SDGs活動推進協議会に職員1名が参加し、京丹波町の活性化策についての、新制度の策定に関わっている。

◆「助け合い」事業

利用者は年間14人であった。介護保険超過分の振替が大幅に減少し全体の回数、時間数共に半減となった。院内介助、買い物付き添いが主であったが、夜間対応、除草作業等、申請手続き付き添い等多様な要望に応えることが出来た。

住民税非課税の利用者11人に対し京丹波町高齢者日常生活支援事業により利用料を

減免し、その合計は 64,500 円であった。

〔利用実績〕※利用者数「合計」は、各月利用者実数を年間合計したもの、以下各表とも同様

	月平均	最多月	最少月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
利用者数(人)	4.6	9	2	55	64	85.9%
回数(回)	24.9	41	2	299	669	44.7%
時間数	21.83	38.50	1.00	262.00	466.50	56.2%

◆外出支援事業（福祉有償運送）

利用者数は微減、回数は前年並みであったが、走行距離が前年度を下回った。以前より京丹波町に要望を行ってきた乗り合わせ送迎が 11 月より認められ 22 件の相乗りによる利用があり効率よく運行できるようになった。多くは京丹波町病院、明治国際医療大学附属病院、京都中部総合医療センター等近隣の医療機関であったが京都市内及び大阪府内の病院へ送迎もあった。運転員を 1 名増員し対応にあたった。

京丹波町社会福祉協議会主催のボランティア振興事業に参加し、外出支援制度の現状や課題を伝え、外出支援以外の地域の移動支援ボランティア立ち上げの協力をした。

〔利用実績〕

	月平均	最多月	最少月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
利用者数(人)	64.3	72	58	771	797	96.7%
回数(回)	233.0	281.0	178	2,796	2,782	100.5%
走行距離(km)	2,325.6	3,244.8	1,747.7	27,906.8	28,639.9	97.4%

◆障害者居宅介護・重度訪問介護事業

今年度も重度訪問介護の依頼は無く利用者は無し。

居宅介護の新規利用が 1 名、利用停止も 1 名であったが、他の事業所と併用や自立に向け回数を減らす方等あり回数・時間数共に前年度より減少。

コロナ禍により長期利用休止されていた方の再開があった。

〔利用実績〕

	月平均	最多月	最少月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
利用者数(人)	11.3	12	10	135	127	106.3%
回数(回)	103.5	138	84	1242	1,421	87.4%

時 間 数	103.52	137.75	81.25	1242.25	1,386.50	90.8%
-------	--------	--------	-------	---------	----------	-------

◆介護保険事業

①居宅介護支援（ケアマネジャー）

新規の利用が18件、入所・死亡等による利用停止が16件であり延べ利用者数は前年度より減少した。

1名が資格更新を完了し、研修中等は他のケアマネジャーと連携し利用者の対応にあたった。

地域ケア会議にも毎月参加し、地域包括支援センターを中心に多職種連携の機会となり事例検討などを通じて地域課題の気づきケアマネジャーの質の向上につながった。民生児童委員との懇談会も数年ぶりに開催され3名共出席、地域での互いの役割を共有することが出来た。

1名が京丹波町地域包括ケア推進委員会等に参加し、京丹波町の施策に反映されるよう現状や課題を発言した。

〔利用実績〕

		月 平 均	最 多 月	最 少 月	本 年 度 合 計	前 年 度 合 計	対 前 年 度 比
件数	介護	58.0	61	53	696	722	96.4%
	総合 (予防)	4.1	5	4	49	72	70.0%

②訪問介護（ホームヘルパー）

新規利用者は17名で、入院、死亡等による利用停止は16名であったが、回数、時間数は前年より増加。訪問介護員が1名減となり、訪問介護員の配置には苦慮するばかりであるが、休日を平日に振替え週末に出勤したり、有資格者のデイサービス職員が送迎時に訪問介護サービスを行う等、事業所職員が連携をし、工夫しながら活動を行っている。

病院付き添いの活動が増加しており、予定時間超過で次の利用者に時間変更をお願いする場面もあった。

新規利用を受け入れ活動を開始したが、入院・体調の急変などにより数回の利用のみで利用終了となるケースもあった。

京都新聞在宅高齢者支援事業から「使い捨てマスク」等の感染予防具の補助をうけた。

〔利用実績〕

		月平均	最多月	最少月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
利用者 数(人)	介護	36.3	40	31	435	423	102.8%
	総合	2.6	3	1	31	55	70.5%
回数 (回)	介護	472.6	533	394	5671	5367	105.7%
	総合	13.8	17	9	166	210	79.0%
時間数 (時間)	介護	445.60	490.25	367.08	5347.17	4914.43	108.8%
	総合	13.71	16.50	9.00	164.50	210.50	78.1%

③通所介護（デイサービス）

新規利用者が18人、施設入所や死亡による停止が12人であった。登録者数は年度末で43名となり1年間の新規利用者受け入れが過去で1番多い年となった。

登録者は増加したが、月の大半をショートステイ利用される方や入院等により延べ利用者数は前年を下回った。

多様なニーズに応え、定時より遅くの迎えや、早くの送りの時短利用も受け入れながら運営している。

瑞穂小学校との交流やバイオリンコンサート、他事業所とのグラウンドゴルフ大会等を実施し、地域や他事業所との交流を深めた。

地域密着型通所介護運営推進会議を11月に開催した。

将来介護職を志す高校生アルバイト2人を受け入れ、清掃ボランティア1人に協力を得た。

〔利用実績〕

		月平均	最多月	最少月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
開催回数(回)		25.7	27	24	308	308	100.0%
利用者数 (人)	介護	34.7	38	30	416	398	104.5%
	総合	2.4	4	0	29	33	87.9%
延利用者 数(人)	介護	316.8	334	295	3,802	3,852	98.7%
	総合	9.3	15	0	111	123	90.2%

1 回平均 (人)	12.7	14.0	11.9	12.7	12.91	98.4%
-----------	------	------	------	------	-------	-------